

中国江蘇省大豊港経済区

第12次5カ年計画の沿岸開発プロジェクトは始まっています。

■ 中国江蘇省大豊市

『四不象』の郷

現在、世界の希少動物として知られている『四不象』が大豊市には約1800頭ほど今でも生息しており、世界最大の保護区域を制定して大切に守ってきました。この功績が認められ、『四不象の郷』の称号を授かる事になりました。

水郷の都市

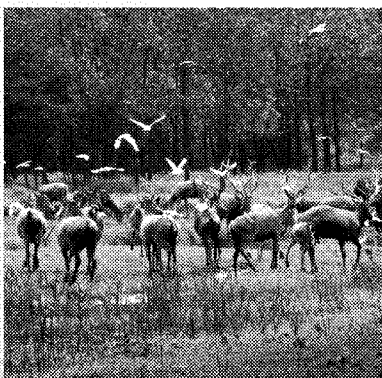
大豊市の東岸地域に点在する湿地帯は総面積1,000万㎡を超える広大な湖水地方です。世界の重要な湿地帯保護地区のリストにも名を連ねています。

黄海に面した港湾都市

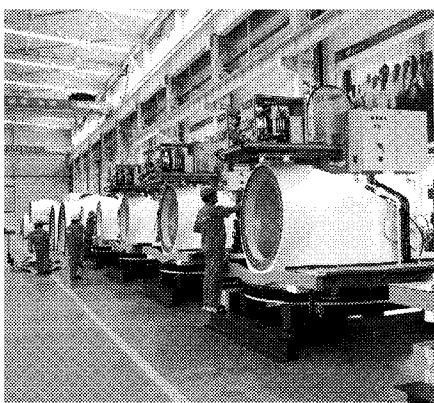
江蘇省の大豊港は、同省の中部エリアでは唯一海外への航路を完備した国際港です。台湾までの直行便や、世界各国の重要な港へのルートが数多く就航しています。また、高速道路へのアクセスも便利で上海まで210kmを約2時間で結びます。

上海の飛び地

市の一部が大都市・上海の『飛び地』的な存在である大豊市は、『飛び地』としては国内でも最大規模の面積を誇っています。1970年代に上海で教育を受けた若者8万人程が在住していたなごりて、記念館や映画撮影の基地が建てられており、文化的レベルは高い水準です。



世界トップクラス 800トン級の水平掘削機



洋上風力発電の研究所と製造基地



中国最大の風力発電所と太陽光発電所

中国の東沿岸 江蘇省の大豊港は‘百億産業’をリードします。

大豊市は上海の北側、江蘇省の東部沿岸に位置する近代的な地方都市です。面積3,059km²人口72万人で、中国経済トップ100県(市)にも選ばれています。広大な湿地帯や黄海沿いの海岸線など、自然豊かな表情を持つ反面、(中国優秀観光都市に選出)安全な治安や社会秩序の面が評価され、中国初の文化都市モデルエリアとなりました。

大豊港の特長

大豊市は、112キロの海岸線の中に29キロにわたる深水エリアを兼ね備えており、産業の発展には有利な条件を持ち合わせています。2010年10月には台湾の基隆港との直行便を正式に就航。日本、韓国、ヨーロッパ諸国には国際航路をすでに開通させています。現在の貨物処理能力は1,500万トン/年を超え、4年後の2015年には1億トン/年の貨物を処理できるという試算が出ています。また、大豊市の耕地面積は江蘇省の中で最も広く、毎年1,300万平方メートル以上のペースで拡大しています。

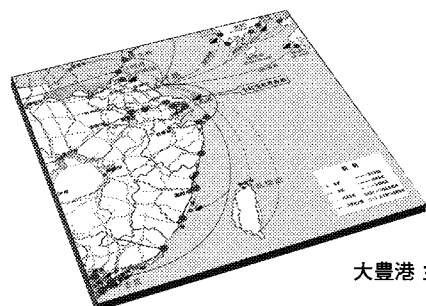
大豊港の海と島々

大豊市の経済海域は面積5,000km²あり、その中に1,000km²以上の砂州(砂が運ばれて出来た島 埋め立ても可能)が放射状に点在しています。この地形は産業の発展にとって大きなメリットになります。

風力発電と太陽光発電

大豊風力発電所の発電量は、年間約1,000万kwあり、江蘇省全体の30%以上の電力を供給しています。また、太陽光発電については、年間日照時間が2,238.9時間と、日本で最も日照時間が長い山梨県の2,183.0時間を超えています。太陽光発電産業の発展は大きな可能性があると言えるでしょう。

国家戦略である江蘇省沿岸開発が実施されてから2周年を迎え、大豊市は新たな目標に向かって出航します!



大豊港 主な航路

中国の第12次5カ年計画(2011—2015年)の終了までに、大豊港は1万トン以上の船が停泊できるポートを38ヶ所を建設します。建設が終了すれば、貨物処理能力は毎年1億トンを超えると考えられています。港を中心に、高級機種を主とした製造業、新素材を精製する鉄鋼業、海洋生物学を転換した石油化学工業、高品質の製紙業、木材の貿易加工などを集中させて中国有数の大工業都市を作る計画です。

また、港湾関係者の話によると、大豊港の貨物処理能力の向上と、周辺地域の発展による相乗効果で、現在2ヶ所の港湾設備を、国内外の船舶が、1回の寄港あたり平均20日間の停泊で使用しています。毎月の貨物処理数も、2年前の年間貨物処理数とはほぼ同じ量になりました。

「沿岸開発で最も重要な点は、まず良好な港を建設する事です。港を産業の起点と考え、海岸線や島などを有効利用して風力や太陽エネルギー等の天然資源を、いかに活用するかが重要」

大豊市委員会書記 倪峰(Ni Feng)談

工場と直結されたターミナル

今年中に石油化学工場と専用のターミナル港が完成します(面積は20km²)。石油ターミナルの建設には、投資総額8億人民元を超え、港の処理能力も660万トン/年を超えました。また、5万トンと8万トンの石油ターミナル港2ヶ所と、コンテナ船が停泊可能な5,000トン級のターミナル港1ヶ所が完成の予定です。

韓国からの自動車部品は、少なくとも毎週300TEU(20フィートコンテナで300)あり、韓国仁川港から30時間以内に大豊港に到着できます。翌日には塩城市経済開発区にある起亜自動車の工場まで輸送することができるので、河北省の連雲港を通るルートと比較すると時間を1〜2日間短縮する事が可能です。また、輸送コストも1コンテナあたり約1,000人民元を節約できます。

中国の風力発電会社 金風科技が、大豊港の立地条件と風力(面積は20km²)。総額30億人民元を投資して、大豊港に洋上風力発電の研究開発と生産拠点を設置しました。第一段階では2.5兆ワットの永磁ダイレクトドライブ風力タービンが量産され、最近の第二段階として、主に6.0兆ワットの永磁ダイレクトドライブの開発と製造を開始します。金風科技の会長 武鋼(Mu Ko)氏は「大豊市は、世界レベル海洋上風力発電設備の研究開発と製造、及び組立ができる能力を持っている。」と語っています。

専門家によると、良好な港の存在が、金風科技のような大手企業が大豊市に集まる重要な要素になっていると言えます。2011年10月に大型の港湾施設が開港して、大手電力会社が輸出産業の為に特別な電力供給ラインを提供している事も評価しており、沿岸地域で建設中の100メガワット級洋上風力発電所からの直接的な電力供給サービスは、南車モーター、西安国水投、中材科技、双菱風電のような大手国有企業が、事業に参入するきっかけともなっていると分析しています。

大豊港が持つ、無限大の可能性に着目して、中国の博匯グループが事業参入を果たしました。総投資額が500億人民元におよぶこの計画は、江蘇省沿岸における単体のプロジェクトとしては最大規模になります。また、現在6つのサブプロジェクトの工事も快調に進んでいます。博匯グループ会長 楊延良氏は、「我々は5,000トン級の会社専用ターミナルを建設する」と公言しており、近い将来、生産工場とターミナル港が直結して、世界各国の港に繋がります。

食糧品、炭炭、鉱石、RO/RO船の専用ターミナル港を建設中です。ターミナル港の裏には、それぞれの分野の工業団地があり、互いに競争しながらプロジェクトを進らせています。木材産業への企業向け用地も造成中で、20社以上の参入が可能です。海洋生物産業の敷地内は基本的に完成し、塩害地域に3万平方メートルのマルチスパン温室とビニールハウスを建設します。操業して間もないステレス産業は、泰昌金属、宏都など10社以上の企業が進出しています。食品物流の用地には、北大荒米業 上海食糧油などの大手企業が参入済みです。

港湾の建設や産業の発展を後押しするには、十分な資金が必要となります。大豊港建設には、2年間にわたり160億人民元の投資がなされてきました。大豊港株式ファンド、蘇港城株式ファンドは12億人民元の資金を調達し大豊港(北京)金融リース会社から5億元調達しました。今年9月2日に大豊港海晶イノベーションセンターが正式にオープンして、4つの基金管理機関が投資ファンドを設立するために準備を行っています。また、商業銀行、セキュリティ会社、ファイナンスリース会社、小規模なローン会社や他の金融機関が11社がすでに参入済みです。会計事務所、財産権の管理会社、金融コンサルティングと、その他のサービス企業が4社あり、既に各ビジネスの投資窓口となって資金調達のサポートをしています。また、3年以内での株式上場を目標としています。

世界市場に向けて躍進する企業に、最高の舞台を用意しています。1,000キロメートルにわたる沿岸の中央の大豊市は、舞台の中心と言えます。あなたと共に百億人民元規模の産業を目指す、パートナーでありたいと考えています。



大豊港海晶イノベーションセンター



国内屈指の海洋生物産業



江蘇省海洋産業研究所

2011中国大豊(東京)投資環境説明会

■ 2011年10月21日[金] 16時〜20時「翔の間」「舞の間」

■ 1部: 説明会「翔の間」 2部: レセプションパーティー(立食)「舞の間」

— ホテルニューオータニ「翔の間」「舞の間」— 東京都千代田区紀尾井町4-1 TEL. 03-3265-1111(代) お問い合わせ: 江蘇省大豊市日本事務所 TEL. 03-5148-2095

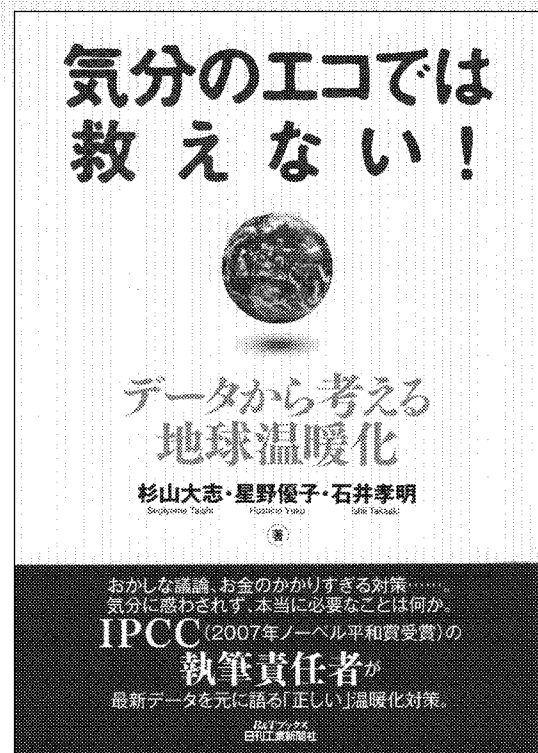
主催: 中国江蘇省大豊市人民政府 大豊港経済区管理委員会 共催: 日中友好映画祭実行委員会 協力: 社団法人 日中経済協会 国際貿易振興促進協会

好評! 日刊工業新聞社の本

気分のエコでは救えない!

データから考える地球温暖化

杉山大志・星野優子・石井孝明著 ●A5判 ●定価1680円(税込)

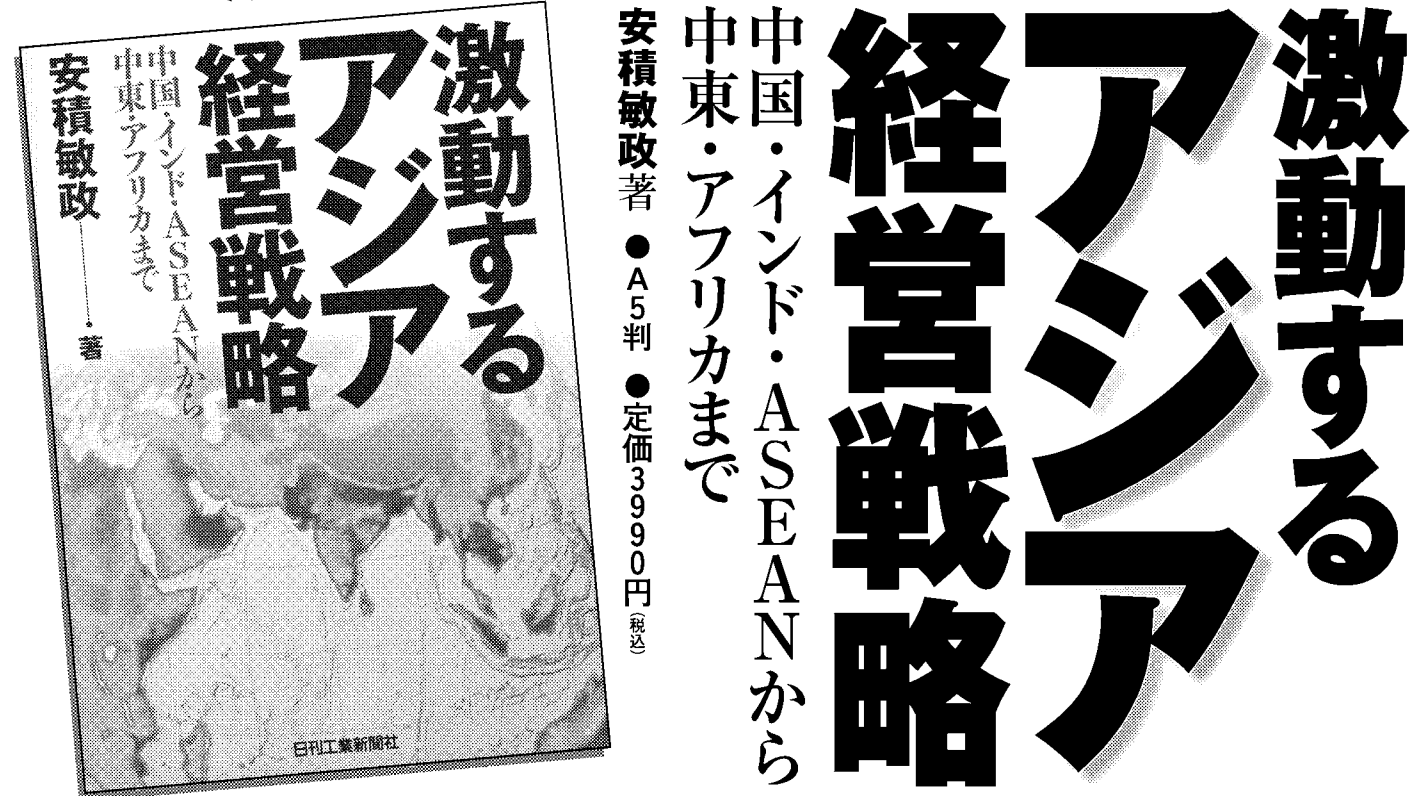


地球温暖化の問題をめぐる、「エコ活動をして地球を救え!」という感情的な議論や不確かな情報が錯綜している。本書は昨今の「気分だけのエコ」の風潮や京都議定書体制に疑問を呈し、地球温暖化問題と日本のエネルギー政策に冷静な視点からメスを入れる。日本の進むべき道を提言した書。

◆目次

- 第1章 国はCO₂を完全に管理できない
—理想だけでなく現実から削減策を考えよう
- 第2章 協力を中心にした国際制度へ
—京都議定書の失敗に学ぶ
- 第3章 日本の強み「物作り」を活かす
—過去の成功体験からノウハウを導く
- 第4章 再生可能エネルギーをめぐる危険な幻想
—巨額の負担を引き受けられるのか?
- 第5章 効果のない政策にNOを
—削減数値目標、環境税、排出権取引を検証する
- 第6章 ビジネスと技術で未来を変える
—省エネ、電化、学習でバランスの取れた対応を

ポストBRICsの最有力候補インドネシア
成長するアジアの新たな核として期待高まる



- 第1章 経営視点からの世界の注目市場の変遷
- 第2章 日本企業のアジアの収益性実態
- 第3章 業界別アジアの成長性と収益性実態
- 第4章 これからのアジア戦略を視野に入れた注目地域
- 第5章 これまでのアジア戦略、これからのアジア戦略

中国、インド、ASEAN…アジアで稼げない日本企業は生き残れない。アジアのダイナミズムを取り込まずして、日本企業の持続的な成長は困難だ。日本企業が生き残っていくための「これからのアジア戦略」を、具体的に提示した一冊。

◆お求めは書店または弊社出版局販売・管理部まで

日刊工業新聞社 出版局販売・管理部 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 TEL03(5644)7410 http://pub.nikkan.co.jp/ FAX03(5644)7400

日刊工業新聞社 出版局販売・管理部 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 TEL03(5644)7410 http://pub.nikkan.co.jp/ FAX03(5644)7400